

NHK「日本の、これから」出演報告

木村雅夫

三月二三日（金）の夜十時からの一時間半のNHK総合TVの生放送討論番組「日本の、これから——日米同盟」に反安保実から一市民として私が討論に参加した。簡単に経過と番組の概要を報告する。

一月二日に反安保実宛てにアンケートが送られてきた。反安保実のホームページを見たという。返事を私が担当し送付したところ、NHKディレクターから会いたいとの電話、二月一二日に会って三〇分間録音付でインタビューを受けた。インタビューでは、日本が米国の属国だ、NHKではタブーかも知れないが天皇裕仁が沖繩を米国に差し出した、昨日も紀元節反対のデモに行つて来た、日本はずっとアメリカの属国ではないか、普天間は戦時占領地なのだから閉鎖返還してもらうべき、など丁寧と考えていることをそのまま話した。その後、ディレクターから周辺の人さらに沖繩の人の紹介を依頼され対応した。そして、番組開始の一週間ほど前に出演を依頼された。

放送日前々にゲストの名前が知らされる。放送の二時間前にスタジオ控室に入り、番組の進行案内を聞く。市民二〇人とは控室で初対面、沖繩からも数人が参加。軽食をほうばりながらぼそぼそ雑談して気持ちほぐす。受けた注意は、スタジオ内には資料も電話も情報機器も携帯禁止、一回の発言につき一つの意見、時間は三〇秒程度、発言は最初に結論を言う、など。市民参加者五人に一人のディレクターが付いてフォローして、この四人のディレクターが沢山の人に会って番組準備をしていたことを知る。

一五分前にスタジオに入る。出演者以外に沢山のカメラとともに二人以上のスタッフが居る。ゲスト六人が中央に位置して市民二〇人が外に包囲するものと考えていたが、実際にはゲストも市民もいっしょに輪になる。三宅民夫、住吉美紀の両アナウンサーと挨拶し、マイクテストを兼ねて自己紹介。ゲストの発言中にしゃべってもいいかと尋ねる

と、三宅アナウンサーはどうぞどうぞと言う。五分前になって緊張してきて、喫煙を要求する人がおり私もトイレをお願いしたが、「大丈夫ですよ」と拒絶される。ゲストは、孫先亮（元防衛大）、植木千可子（早稲田大）、姜尚中（東大）、桜井よしこ、マイケル・グリーン（米戦略国際問題研究所）、田中均（元外務省）。三宅アナウンサー進行でビデオ上映と質問とをはさんで議論し視聴者も参加する。心配したとおり、番組自体が日米同盟を当然視する企画・進行であった。例えば、タイトルが「日米同盟」、日米安保反対あるいは沖繩の声を代表するゲスト不在、三宅アナウンサーの「日米同盟は日本の礎」なる導入発言、一九六〇年に安保制定との字幕ビデオ、同盟を積極的に深化するか慎重に深化するかを問う質問、などがそのことを示している。それでも、小林アツシさん（「どうするアンポ」ディレクター）と連携して、安保反対を番組で強く訴えた。日米安保ゆえの侵略戦争加担、伊達判決への米国圧力、日本は米国の属国、世界で戦争を起こしているのはアメリカ、私は死刑廃止論者だけれどもブッシュを八つ裂きにしたぐらいだ、などの発言をした。

番組終了後すぐに感想をメールで問われたので、不規則発言を言い訳しながら、上記番組企画の偏りを強く批判しておいた。一週間後には記念撮影写真と番組収録DVDが送られてきた。反安保実にメールしてきて最後にこのDVDが送られてくるまで、NHKは大変親切で紳士的であった。一方、私もインタビューでも知人紹介でも放送中も、率直に意見を述べながらも丁寧な対応をした。あの時こう言えば良かったとか、もっと穏やかに話して一般の人にも説得力があれば良かったとか反省もある。が、今後も、影響力大なるマス・メディアに対して、率直に丁寧に対応して、活用していければ良いと思った。

（きむら・まさお／反安保実）